

(3) 水道と下水道^{げすいどう}

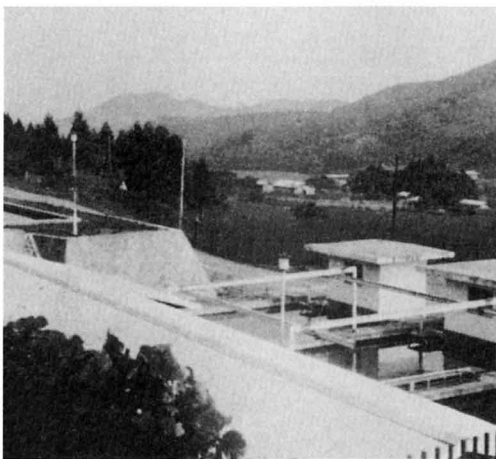
人々がけんこうな生活をするうえで、水道と下水道^{げすいどう}は大切な役目をはたしています。

○村の水道

大信村では、昭和50年に簡易水道^{かんい}をつくる計画が立てられ、昭和53年4月には、村全体の水道施設^{しせつ}がととのい、給水がはじめられました。簡易水道^{かんい}というのは、水道を利用する人数が101人から5000人までの小規模^{きぼ}な水道のことです。

村内には、隈戸^{くまど}国有林横道沢^{こくゆうりんよこみちさわ}の表流水^{ひょうりゅうすい}を利用する西原浄水場^{じょうすいじょう}と、小萱^{こがやちく}地区^わの湧き水^{わきみづ}を利用する小萱配水地^{はいすいち}と上新城^{かみしんじょう}地区内の地下水^{かみしんじょう}を利用する上新城配水池^{きょう}がつくられ、大信村のほとんどの全部の地区^{きょう}に供給^{きゅう}しています。一部の家庭では、まだ井戸水^{いずみづ}などを使用しているところもありますが、水道^{かんせい}の完成で水がいつでも使えるようになり、衛生^{えいせい}上の問題^{じょう}もなくなりました。

(＊表流水とは、地上を流れている水-川の水)



西原浄水場



上新城配水池